

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100657		
法人名	有限会社 ホットライフ		
事業所名	グループホーム ホットライフ		
所在地	佐賀市鍋島町大字森田82-10		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、私たちは明るく笑顔でケアを行います。2、私たちは思いやりを持ってケアを行います。3、私たちは利用者様中心のケアを行います。を介護理念として1人ひとりの意思を尊重し、状態や状況に応じたサービスを提供しています。またホームの新聞を作成し、毎月家族様に日常生活の様子を伝えたり、来訪時に希望を聞くなど、積極的に信頼関係作りに取り組んでいます。健康管理は、体操を体調や体力に合わせて行い、体調不良の早期発見のために、1日2回のバイタル測定を行い、協力医療機関との連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、交通量の多い道路から、50メートルほど入った場所であるが、閑静な場所であり、玄関前には大きな桜の木があり、西側には田畑や山の景色を見ることができる。南側は大きな窓があり、明るく穏やかな日差しが入り、ゆったりとした雰囲気が漂っている。県道を挟みすぐ近くに同一法人の協力医療機関があり、毎日、協力医療機関へ入居者の健康状態の報告を行い、受診や緊急時の医療連携が図られている。毎月ホームページをつくり、家族へ送り、入居者の1ヶ月の状況や受診後の状態等の報告が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに介護理念を掲示している。毎月のカンファレンス始めに唱和し、意識づけを行い実践している。	介護理念はリビングに掲示しており、カンファレンス時等に唱和され、意識づけが行われている。カレンダーの横には、理念に沿った「ほっと愛言葉」も掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の商店から食材を配達してもらっている。散髪も訪問サービスを利用している。今年はコロナ感染対策の為、行事時の外出は控えることになった。	地域にある商店から魚や野菜など新鮮な食材を配達してもらい、地域から散髪にも来られている。しかし、ホーム近隣との交流が少ない。	日常的な声掛けなどをきっかけにして、ホーム近隣との交流が行われるように期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学者や訪問業者に認知症について説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回おたつしゃ本舗・民生委員の参加で利用者の日常やヒヤリハットの報告を行っている。皆様の意見等でサービス向上に努めている。議事録は掲示板に公表している。	月2回の対面の運営推進会議を行われており、ホーム内での報告がされている。議事録は誰もが見られるように設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者・ケアマネージャーが市町村担当者と連絡・相談する事で協力関係を築いている。	地域ケア会議に参加し、情報共有を行っている。民生委員や地域のケアマネージャーとも相談や報告等を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ヒヤリハット報告を全員で共有し、事故防止に努め、身体拘束をしないケアを実践している。	現在、身体拘束は行っていない。玄関についても施錠をしない工夫を講じている。また、カンファレンス時に身体拘束に関するテーマを決め、勉強会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のカンファレンス時に勉強会を行い、虐待について常に意識を持っている。身体状況は入浴や更衣時に確認し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス時に権利擁護の研修を行っている。成年後見人制度や生活保護の方も対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分に説明を行っている。法改正時や料金改正の際も、運営推進会議で説明・相談し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケートを実施他、意見箱を設置し随時意見の受付を行っている。運営推進会議で意見を検討し書面にして運営に反映している。毎月の便りでホームでの生活を知る事ができるようにしている。	年に1回アンケートを実施している。回収率は7割程度である。また、玄関内に意見箱を設置し、随時意見や要望を聞くよう努めている。出された意見は毎月の便りにて報告し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時に、職員の意見や提案を検討する機会を設け、連絡ノートにて周知徹底している。代表者へは上司が報告している。	各ユニットで毎月カンファレンスを開催し、代表者や管理者は職員の意見を聞くよう努めている。カンファレンスに参加できない職員がいる場合は、事前に個別に話を聞き、連絡ノートにて意見を把握するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年目標設定し、職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月カンファレンス時に勉強会を実施している。研修会や講習会の情報は共有し、参加希望がある時は勤務の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や地域の交流会に参加し、情報交換などサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族と一緒に見学して頂き、入居時の不安解消に努めている。安心して生活できるよう全職員で利用者に寄り添い要望等を聞き、適切な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や来訪時に不安等を聞き、要望に応えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員全員が入居者の状態や状況の情報を共有し、必要な支援にすぐに対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る事、出来ない事を把握し、その方に沿った援助を行う。その事を職員で共有し、安心して過ごして頂くよう関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付している新聞に利用報告を添付している。日々の暮らしの報告も来訪時に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親類の方が面会に来られている。今年にはコロナ対策の為、面会を控えて頂いたが、年末年始にテレビ電話を導入した。	コロナ禍にて、テレビ電話での面会を導入されている。これまでは、面会者を居室に案内し、小さいテーブルとイス、お茶を準備し、本人とゆっくりと過ごせるよう配慮していた。コロナ禍が終息した場合は、これまでのように居室での面会を再開する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士が関わり合い支え合えるよう座席など決めている。また孤立しないようにレクリエーションで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居が殆どだが、入院先に面会したり、家族の話聞き、継続的な関係に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取り困難な場合は、日々の生活の中でコミュニケーションを図り、表情等で思いを理解できるよう努めている。家族の希望や、本人とどう関わっていききたいのかも把握するように努めている。	本人と新聞を読みながら、言葉をヒントに話を広げ、活発なコミュニケーションを図っている。言葉での意向の表出が困難な方については、マッサージを行いながら表情をみて、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居に至るまでの関係機関に情報提供を依頼し、これまでのサービス利用の経過の把握に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状態や表情観察を行い、現状の把握に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の家族報告や面会時に状況報告し、課題やケアについて話し合っている。介護計画は家族の希望も考慮し、作成している。	介護計画は、日々の経過をたどり、家族と話し合いながら作成している。日・月・年での課題評価を作成し、現状に即した介護計画での支援を行うよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等を個人記録に記入し、評価も行っている。生活の中で気づきや工夫も朝夕の申し送りや連絡ノートで情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望に対して、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年新型コロナウイルス感染症が流行ってしまった為、極力外出を控えて頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に系列の病院をかかりつけに希望されている。定期的な検査と症状・状態に応じた受診を支援している。	入居時にかかりつけ医の継続について説明し、本人・家族の意向を確認しているが、ほとんどの入居者が協力病院への変更を希望している。専門病院は、家族の協力のもと適切な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関とは、定期受診や突発的な体調不良の際には、すぐに相談できる関係が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から入居者や体調変化に合わせ、綿密に情報交換や相談できる関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期について書面で説明し同意の確認をしている。その時が来たら、再度家族と相談し、ホームとして出来る所までの支援を行っている。	ホームで出来ることと出来ないことについて入居時に書面で説明し、本人・家族と共に確認している。重度化した場合や終末期には主治医より入院を勧められることが多い。ホームとしてできる支援は家族と話し合い、支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急の講習を受講している。年2回AED講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害時を想定して、避難訓練を行っている。ハザードマップをリビングに備え付け、災害時に備えている。	年2回の火災避難訓練を実施し、備蓄品の用意もなされている。ホーム内にハザードマップを掲示し、また、週1回はコンセント周囲の掃除をされているが、訓練に夜勤専属の職員が参加しておらず、地域住民の協力体制が確保されていない。	夜勤専属職員の訓練への参加が望まれると共に、地域の方との協力体制が図れるように期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意思を尊重し、人生の先輩だという尊敬の気持ちをもって対応している。手伝いをして頂いた時は、感謝の言葉をかけている。	トイレでは、扉は閉め、入浴時はスクリーンを設置し、プライバシーに配慮している。しかし、極稀に職員同士の会話で言葉が大きくなる場面がある。	接遇マナーについての理解を含め、全職員が意識の向上ができるように期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションで、いくつかの選択肢を出して、希望に沿えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、利用者それぞれのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる利用者には、自分で選んだ服を着てもらっている。入浴後に着替えも準備できる方にはして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者各々の好みや量や食べやすさを工夫して提供している。食後には、トレイ拭きやテーブル拭きを手分けして手伝ってもらっている。	食事は職員で調理し、入居者の好みや健康状態を考慮しながら、食事形態を変化させ提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調を考えて、食事量・水分量が確保できるように支援している。 毎食の食事量と水分量を確認し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、自分で出来ない方には介助をして、清潔保持に努めている。 必要に応じて、歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンに合わせ、声かけ誘導を行っている。なるべくトイレで排泄して、快適に過ごして頂くように支援している。	常時オムツを使用している入居者はいない。排泄チェック表にて排泄のパターンを確認し、座位が保てる場合は、トイレでの排泄支援を行うよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い献立や、排泄を促す食材を取り入れて調理している。また各々に合わせた運動を促している。提携病院に相談し排便コントロールは出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はリラックス出来るようにコミュニケーションを取りながら支援している。個々の希望に応じた時間に入浴してもらっている。	週2回の入浴を基本とし、本人の状態に応じて、コミュニケーションを図りながら楽しく入浴が出来るよう支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや居室は遮光や温度・湿度を調整して、いつでも安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は説明書があり、いつでも確認できるようにまとめている。服薬介助は飲みこぼしがないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を活かして、洗濯物たたみやトレイ拭き居室の清掃等手伝ってもらい、達成感を感じてもらい、職員も感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日は、日向ぼっこしたり、近くへ散歩し気分転換を図っている。コロナ対策の為、家族との外出は控えて頂いた。	天候が良い時には外気浴を行う他、病院受診後にドライブで気分転換を図る等の工夫も行っている。家族との外出時にはホームの車椅子を貸出し、外出をしやすい環境作りに努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が難しい利用者が多い為、預り金として適切に管理し、毎月利用報告で残高等報告している。買い物は家族と相談して代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時はその都度対応している。手紙は本人了承の元、代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、利用者や職員が作った飾りや絵を貼り、行事時の写真を飾り付けて、季節感を感じられるように努めている。天候に合わせ、カーテンで採光や温度を調整している。	温度計・湿度計を設置し、室温や湿度の管理を行っている。リビングでは空気清浄機が常時稼働しており、不快なおいも感じない。職員の足音に関しても、足音が響かない靴を履き、配慮している。壁には、季節の写真が飾られており、明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席で、利用者同士や職員と談話を楽しんでいる。居心地が悪い利用者がいないように、席も配慮して決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた物など家族に持って来てもらい設置している。家族の写真や仏壇、タンスを置いておられる。	基本的に持ち込みは自由で、本人が使い慣れた家具や調度品を居室内に持ち込むことが出来る。壁等に家族の写真を貼り、個性あふれる居室づくりが行われている。家具の配置は、本人の状態に合わせて設置し、居心地がよく安全に過ごすことが出来るよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子、テーブルの配置、押し車の置き場所を考慮し、安全に生活できるように努めている。		